

公聴会及び第412回

香川海区漁業調整委員会議事録

令和7年12月16日

# 公聴会及び第412回香川海区漁業調整委員会議事録

1. 開催年月日 令和7年12月16日(火)  
公聴会:午前10時00分~10時30分  
委員会:午前10時00分~10時45分

2. 開催場所 高松市サンポート1番1号  
高松港旅客ターミナルビル7階会議室

## 3. 出席した委員

会長	北尾登史郎
委員	橋本時雄
"	北野廣治
"	宇山哲司
"	松本伊三郎
"	木下一彦
"	倉本伊佐生
"	小山雅司
"	宮地利博
"	一田弘樹
"	嶋野勝路
"	石原千代子
"	筒井由果
"	島瀬勇二

## 4. 関係列席者(水産課、事務局)

農政水産部次長兼水産課長	柏山浩史
事務局長兼漁業調整室長	植田豊
室長補佐兼事務局次長	藤原宗弘
室長補佐兼事務局次長	大山憲一
副主幹	小林武
主任	湯谷篤
主任	宮奥昂次

## 5. 議事事項とその結果

### 公聴会

公述すべき案件「海区漁場計画の変更について」

公述者なし

### 委員会

第1号議案 「海区漁場計画の変更について（諮問）」

諮問された内容で適當である旨答申することに決定した。

第2号議案 「令和7年度連合海区漁業調整委員会について（協議・報告）」

内容について事務局が説明し、了承された。

第3号議案 「第51回瀬戸内海広域漁業調整委員会の結果について（報告）」

内容について事務局が説明し、了承された。

第4号議案 「漁業権等における資源管理の状況等の報告について（報告）」

内容について事務局が説明し、了承された。

## 6. 議事のあらまし

公聴会において公述者なし。

公述者がなかったことから、委員会の開始時刻を早めて開催し、北尾会長があいさつの後、議長となった。新任の宮地委員の紹介後、議事録署名人に木下委員と嶋野委員を指名して議事を進行した。

〔北尾会長〕

それでは議題に入ります。第1号議案「海区漁場計画の変更」については、公聴会後ということで、第2号議案「令和7年度連合海区漁業調整委員会」について事務局より説明願います。

〔小林副主幹〕

（資料2-1、2-2に基づいて説明）

〔北尾会長〕

よろしいでしょうか。何かご意見等ござりますか。

（異議・意見等なし）

〔北尾会長〕

それでは、第3号議案「第51回瀬戸内海広域漁業調整委員会の結果」について、事務局より説明をお願いいたします。

〔事務局（小林副主幹・湯谷主任）〕

（資料3に基づいて説明）

〔北尾会長〕

これについて、何かご意見等ござりますか。

（意見等なし）

〔北尾会長〕

30分が経過いたしましたので公聴会を閉じたいと思います。第1号議案の「海区漁場計画の変更」については、利害関係者からは特段意見がなかったということです。海区

漁場計画の変更について県知事から諮問がございますが、内容につきましては前回説明のとおりですので、適當である旨、答申をしてよろしいでしょうか。

(異議等なし)

〔北尾会長〕

それでは、海区漁場計画の変更について、適當である旨、答申したいと思います。続いて、事務局から今後のスケジュールの説明をお願いいたします。

〔宮奥主任〕

(資料1-2の「事務手続きスケジュール」に基づいて説明)

〔北尾会長〕

何かご意見等ございますか。

(意見等なし)

〔北尾会長〕

次に、第4号議案「漁業権等における資源管理の状況等の報告」について、事務局より説明をお願いいたします。

〔湯谷主任〕

(資料4に基づいて説明)

〔北尾会長〕

この件について、何かご意見等ございますか。

(意見等なし)

〔北尾会長〕

資源管理の状況等の報告によると、ほとんど100%近い回答で活用されているという結果ですが、100%になっていないのは、報告がなかったのか、それとも操業していないという回答があったのか、どちらでしょうか。

〔湯谷主任〕

今回は、すべて報告は頂きました。その報告の中で、行使者の体調不良等の事情により操業できなかったという理由から今回活用されなかったということでした。ただ、これは令和6年度の報告ですので、次年度以降は活用していただけるようお伝えしました。

〔北尾会長〕

何か、ご意見等ございますか。

(意見等なし)

〔北尾会長〕

それでは、(5)その他ということで事務局から何かありますか。

〔小林副主幹〕

次回の海区委員会の日程調整ですが、事務局としましては、1月22日(木)または1月23日(金)のいずれも午前10時からの開催を考えております。ご都合はいかがでしょうか。

(意見等なし)

〔北尾会長〕

そうしましたら、事務局で日程を調整して、ご連絡をいたします。

その他、特にございませんか。

〔北野委員〕

トラフグの件で、今回、瀬戸内海の情報だけでの報告でしたが、全国の総水揚量はわかるのですか。今日本で一番トラフグが獲れているのは北海道です。宮城県も例年の何倍も獲っています。全体の水揚量を把握しなければ、トラフグ自体がどういう状態にあるのかわかりません。親魚が増えたということは、外洋に行って産卵しているのかもしれません。瀬戸内海で子供がいないということは、（こちらにいる親は）、子を産むような親でないのですから、そこら辺を調べなければならないと思います。

〔湯谷主任〕

北野委員からご質問、ご意見いただきました。実際トラフグの会でも、他県からも同じようなご意見をいただいております。国の見解ですが、東シナ海、日本海、瀬戸内海から、太平洋側に大きく移動しているということは、現状では考えにくいということでした。過去に、標識放流や遺伝子を調べた結果からいうと、大きく移動している可能性は低いのではないかと言われています。ただ、現にその太平洋側で、今までないぐらい漁獲があり、瀬戸内海系群では、親がいるにもかかわらず、加入が増えてこないといったような現象が起きているのは事実なので、再度、遺伝子のサンプルを集めて調べるといったようなことも対応していくと国から言われております。

〔北野委員〕

備讃瀬戸で、以前は、秋頃であれば、フグの子がいっぱいいたのに、この頃一匹も見ません。ということは、子がそこで生まれていないのだと思います。

〔嶋野委員〕

今、北野委員が指摘した件は、この前の広調委で私から、「宮城県の延縄で結構獲れていると聞いているが、そのデータはないのか。」と質問しました。確か資料があつたはずだと思います。

〔柏山次長〕

次回、トラフグの今の状況について、資料を出させていただきたいと思います。

〔北尾会長〕

では、次回委員会で資料を提出して説明いただきたいと思います。

その他、特にご意見等ございますでしょうか。

( 意 見 等 な し )

〔北尾会長〕

それでは、これで、第412回の海区委員会を閉じたいと思います。

〔閉 会 午前10時45分〕

上記は公聴会及び第412回香川海区漁業調整委員会の議事の顛末に相違ありません。

議 長 北 尾 登 史 郎

署名委員 木 下 一 彦

署名委員 嶋 野 勝 路